

② インテリア家具制作Ⅰ					
科目名	インテリア家具制作Ⅰ				
担当教員	石崎 信宏		実務授業の有無	○	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	オリジナルの家具づくりの基礎を学ぶ。素材から加工を通して家具の機能とデザインの関係性を理解する実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する家具づくりのプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した製作の進め方の基本を理解する。 4. 自分で作った家具の査定をし実習を行い、評価、解説する。				
学習目標 (到達目標)	自分でデザインし、自分で製作し、自分で使用してみる。 その体験を通し、物を使用する利便性、実際の使用勝手さ、デザインの見た目、美しさ、製作の苦労、難しさ、楽しさ を学ぶ。 それと同時に 与えられた時間内に物をまとめるあげる能力を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①実習用の材料、図面				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	・ウォールシェルフのデザイン ・インテリアフォトフレームのデザイン ①使ってみたい形をマンガ、イラストで描く。 ②複数案から1本にしぼる。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
2	上記のデザインをCADで製図にする ①マンガから図面に起こす。 ②CADの実績練習。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
3	製作手順、工程を決定する ①図面から立体予想図(鳥観図)を起こす。フリーハンドで。 ②製作工程を考える。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
4	墨出し、製作する ①製作手順に従って、材料の粗取り、墨出し ②手ノコで切断、組立、ビス打ち。 ③仕上げは板やすりを使用する。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
5	塗装 ①オイルステイン系の染色タイプを選ぶ、→ 木目の美しさを出す ②水性の塗料を選ぶようにする → 後処理のしやすさを考慮	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
6	評価 ①完成品に対して、自己査定する。 良かった点と悪かった点を一つ以上 ②他者の作品を評価する。 良かった点のみを一つ以上	プレゼンシートを完成させ、コンセプトや内容について発表し、講評・解説			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度、課題への取り組み姿勢、出席回数を総合判断する。 授業態度20% 課題への取組姿勢40% 作品の評価30% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			個性は生かしつつ、実務で使える技術を楽しんで習得していくことを目標としている。 インテリアにおいて重要なファクターの家具は、デザイン性や機能性を十分理解する必要がある。、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、個別指導を含め、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 建具家具製作の業務に33年携わる					

② インテリア家具制作Ⅱ					
科目名	インテリア家具制作Ⅱ				
担当教員	石崎 信宏		実務授業の有無	○	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	オリジナルの家具づくりの基礎を学ぶ。素材から加工を通して家具の機能とデザインの関係性を理解する実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する家具づくりのプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した製作の進め方の基本を理解する。 4. 自分で作った家具の査定をし実習を行い、評価、解説する。				
学習目標 (到達目標)	自分でデザインし、自分で製作し、自分で使用してみる。 その体験を通し、物を使用する利便性、実際の使用勝手さ、デザインの見た目、美しさ、製作の苦労、難しさ、楽しさ を学ぶ。 それと同時に 与えられた時間内に物をまとめるあげる能力を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①実習用の材料、図面				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	・ベンチのデザイン →自由課題と規定課題 2点 ①使ってみたい形をマンガ、イラストで描く。 ②複数案から1本にしぼる。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
2	上記のデザインをCADで製図にする 先に自由課題後に規定課題 ①マンガから図面に起こす。 ②CADの実績練習。 → 規定課題の方はCAD図をパス → 製作日数の関係で	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
3	製作手順、工程を決定する ①図面から立体予想図(鳥観図)を起こす。フリーハンドで。 ②製作工程を考える。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
4	墨出し、製作する ①製作手順に従って、材料の粗取り、墨出し ②手ノコで切断、組立、ビス打ち。 ③仕上げは板やすりを使用する。	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
5	塗装 ①オイルステイン系の染色タイプを選ぶ、→ 木目の美しさを出すために ②水性の塗料を選ぶようにする → 後処理のしやすさを考慮	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
6	評価 ①完成品に対して、自己査定する。 良かった点と悪かった点を一つ以上 ②他者の作品を評価する。 良かった点のみを一つ以上	プレゼンシートを完成させ、コンセプトや内容について発表し、講評・解説			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度、課題への取り組み姿勢、出席回数を総合判断する。 授業態度20% 課題への取組姿勢40% 作品の評価30% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			個性は生かしつつ、実務で使える技術を楽しんで習得していくことを目標としている。 インテリアにおいて重要なファクターの家具は、デザイン性や機能性を十分理解する必要がある。、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、個別指導を含め、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 建具家具製作の業務に33年携わる					

② インテリア家具制作Ⅱ					
科目名	インテリア家具制作Ⅱ				
担当教員	石崎 信宏		実務授業の有無	○	
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	オリジナルの家具づくりの基礎を学ぶ。素材から加工を通して家具の機能とデザインの関係性を理解する実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する家具づくりのプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した製作の進め方の基本を理解する。 4. 自分で作った家具の査定をし実習を行い、評価、解説する。				
学習目標 (到達目標)	自分でデザインし、自分で製作し、自分で使用してみる。 その体験を通し、物を使用する利便性、実際の使用勝手さ、デザインの見た目、美しさ、製作の苦労、難しさ、楽しさ を学ぶ。 それと同時に 与えられた時間内に物をまとめるあげる能力を養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①かんたん実用木工家具 ②女子DIYの教科書 ③集材材でつくる木のインテリア				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	使い置き家具の選定 作り方等の説明があればその説明通りに木材を加工し、その通りに作品を仕上げます。図面から正確に読み取り、寸法通りに加工し、正確に物を作れるよう学ぶ	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
2	家具確定後の材料のひろい ①選定家具をパーツごとに分解し各寸法の割出し ②材料の必要量の割り出し	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
3	墨出し、製作する ①木取り案を考え、木材に墨出し	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
4	塗装 ①水性系の染色タイプの塗料 → 木目の美しさを出すために ②最後にニスをおかけ仕上げ	方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の作成。制作の過程や基本が理解できている。 準備学習：プリントを見ながら、手順を練習する。			
5	評価 ①完成品に対して、自己査定する。 良かった点と悪かった点を一つ以上 ②他者の作品を評価する。 良かった点のみを一つ以上	プレゼンシートを完成させ、コンセプトや内容について発表し、講評・解説			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度、課題への取り組み姿勢、出席回数を総合判断する。 授業態度20% 課題への取組姿勢40% 作品の評価30% 出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			個性は生かしつつ、実務で使える技術を楽しんで習得していくことを目標としている。 インテリアにおいて重要なファクターの家具は、デザイン性や機能性を十分理解する必要がある。、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、個別指導を含め、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 建具家具製作の業務に33年携わる					